

2015 年度 地域包括支援センター全国実践研究集会

地域包括ケアの未来予想図を描く

～ 地域の暮らしを支える主体的取り組みの結びつき ～

人口減少と少子高齢化が急速に進行している我が国は、これまでの社会保障の積み重ねを土台としながらも、将来に向けて新たな構想を描いていく必要に迫られています。また、多様化する社会的ニーズと疾病構造の変化により、求められるケアのあり方は幅広くなっており、地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題になっています。地域包括ケアが提唱されてから 10 年以上が経過した今、一度立ち止まり、これからの 30 年、50 年先を見据えた地域包括ケアシステム構築の構想を描いていく必要があります。

そこで、公益社団法人日本社会福祉士会は「なぜ地域包括ケアが必要なのか」を見つめ直し、地域包括支援センターや行政など地域の機関や住民が主体的に取り組み、結びつくために必要なことを明らかにしながら、地域包括ケアの未来予想図を描くことを目的に、2015 年度地域包括支援センター全国実践研究集会を開催いたします。

1. 開催日：2015 年 10 月 31 日（土）～ 11 月 1 日（日）
2. 会場：全理連ビル 9F 会議室（東京都渋谷区代々木 1-36-4）
3. プログラム（予定）：

時 間		内 容
10 月 31 日	13:00～13:15	オリエンテーション、開会挨拶
	13:15～14:45 基調講演（90 分）	テーマ 地域包括ケアの未来予想図～新しい支え合いの仕組みをどう構築するか～（仮） 講師 宮本 太郎氏（中央大学法学部）
	14:45～15:00	休憩（15 分）
	15:00～17:30 シンポジウム （150 分）	テーマ 地域包括ケアの未来予想図を描く～地域の暮らしを支える主体的取り組みの結びつき～ コーディネーター 中澤 伸 氏（社会福祉法人川崎聖風福祉会） 中 恵美 氏（金沢市地域包括支援センターとびうめ） シンポジスト 川越 正平 氏（あおぞら診療所） 中澤 映子 氏（立川市けやき台団地自治会副会長） 篠田 浩 氏（大垣市役所）
	18:00～20:00	懇親会（希望者のみ）
11 月 1 日	9:00～10:00 報告（60 分）	テーマ ジャーナリストから見た「高齢者の住まい」の現状と課題（仮） 報告者 小山 孝 氏（読売新聞東京本社 社会保障部次長）
	10:00～10:10	休憩（10 分）
	10:10～12:40 実践報告 （150 分）	地域を基盤としたソーシャルワーク実践報告 座 長 梅本 政隆 氏（大牟田市役所） 山本 繁樹 氏（立川市南部西ふじみ地域包括支援センター） 報告者 ①久木崎祐一 氏（いちき串木野市地域包括支援センター/鹿児島） ②竹内 裕一 氏（南三陸町地域包括支援センター/宮城） ③渡辺 幸 氏（甲府市南西地域包括支援センター/山梨）
	12:40～12:45	閉会挨拶

4. 参加対象：地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、行政職員、その他関係者など
5. 定 員：150 名（申込数が少ない場合、当研究集会を開催しない場合があります。予めご了承ください。）
6. 参加費：都道府県社会福祉士会の会員 12,000 円、会員以外 17,000 円（資料代を含む）
7. 懇 親 会：参加費 4,000 円（参加希望者のみ。事前申込制）
8. 申込方法：所定の申込書にて FAX または郵便によりお申し込みください。（電話では受付できません。）
9. 申込締切：8 月 31 日（月）まで（先着順）
10. 参加可否：参加の可否は、申込締切後～9 月 18 日までに文書にて発送します。併せて、会場案内、参加費の納入案内、キャンセルの扱い、懇親会等についてもご案内します。
11. 研修単位：生涯研修制度の単位は、2 日間すべてのプログラムを修了することで、新制度では「生涯研修制度独自の研修 7 時間」となり、旧制度では「共通研修課程 10 単位」になります。
12. 主 催：（公社）日本社会福祉士会
13. 後 援：社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会、社会福祉法人東京都社会福祉協議会
14. 問い合わせ先：（公社）日本社会福祉士会 生涯研修センター TEL：03-3355-6541 FAX：03-3355-6543